

ネットとの付き合い方を学んでみませんか！下のQRコードからご覧ください。



### 「コロナ禍にあつての新しい事業の進め方」について

会長 桑原 重雄

青少年育成市民会議の活動の根幹は、鷺山地域の子ども達が社会にでるまでの間、健全育成のために、地域の関係団体と協力しながら支援していくものであります。

令和二年は、二月末頃からの新型コロナウイルス感染症拡大による自粛制限下にあって、活動そのものが、全く手探り状態となりました。

感染防止策を第一と捉えつつ「コロナ時代のネット環境」と題してのミニ集会は、どの親にとつても身につまされるものであつたのではないのでしょうか。

また、地域の関係団体と取り組んだ「竹灯籠まつり」は一万個のオレンジ色の光で出来た斎藤道三公の家紋



二頭立波と鷺山小学校創立130周年記念の文字は、子ども達の心に一生忘れないうれしい思い出として残ることでしよう。  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年通りの活動が出来ない状況の中でも、知恵と工夫によって前向きに進んで行く事こそが、私共に問われる「新しい事業の進め方」でなかろうかと、思い至る次第であります。

### ミニ集会 「子どもたちのコロナ時代のネット環境」

令和2年11月7日(土)に鷺山小学校 体育館にてミニ集会『子どもたちのコロナ時代のネット環境』が開催されました。  
当日は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、入口にて手指の消毒、検温を行い、十分な距離を確保した座席の配置、こまめなマイクの消毒、全員マスクの着用を徹底し、開催をいたしました。講師は昨年引き続き、情報モラル教育研究所の上水流 信秀先生にお願いし、約2時間、熱の込もった講演となりました。



環境に関するアンケートを実施し、得られた統計データに基づいて、鷺山小学校に通う児童のネットの繋がりについて、現状を分析していただきました。  
鷺山小学校児童のスマホの所持率は、全国平均と比べて1.4倍高い状況であることが分かりましたが、スマホを長時間利用する児童はそれほど多くない状況が分かりました。1日の利用時間が3時間以上になってしまふと、そこからネットの利用時間がどんどん多くなってしまう『**ネット依存**』に陥りやすくなることから、そのような生活スタイルにならないように親子でコミュニケーションをとって、正しくネットと付き合い合う生活リズムを作り、賢いネット利用者になっていくことが重要です。  
①子ども達がゲーム中継のチャットサイトや動画配信サイトに個人情報やばらまいてトラブルに巻き込まれる『**ばらまくキケン**』  
②ネットの中で、見ず知らずの人とネットでやりとりをして個人情報や連絡先を教えたり、会う約束をしてトラブルにあふ『**つながるキケン**』  
③ネット依存になって、誰ともコミュニケーション

をとらなくなってしまう『**つながらなくなるキケン**』  
という3つの『**キケン**』に陥らないか、見守っていくことが重要であると話を頂きました。  
また、ネットでのトラブルに対処するために、親がやるべきこととして、子ども達が、ネットでのトラブルに巻き込まれたときに、子どもが一人ではかかえないよう、親子でコミュニケーションをとっておくことが重要です。また、子ども達が利用しているSNS等サイトに登録しているIDやパスワードを控えておき、いざという時に対応できるように備えておくことが重要です。  
『**保護者**』と『**子ども**』では、世代が異なるため、ネットとの付き合い方自体が変わってきています。子ども達がネットを利用すること自体を否定するのではなく、『**正しく利用できるスキルと生活習慣を身につける**』ことが、子ども達をネットの危険性から守る重要なポイントであるとお話頂きました。



# 竹灯籠まつりに参加してくれた小学生、中学生、高校生からのメッセージをお届けします



初めてのインリーダー  
4年2組 福永 隼士

ぼくは、今年度初めてインリーダー活動に参加しました。どんなことをするのか、わくわくしていたけれど、コロナでちゃんと活動ができるか心配でした。でも、役員の人が行事を考えてくれて、うれしかったです。

ぼくが一番楽しかった活動は、竹灯籠まつりに使う竹を、鷺山に切りに行ったり、灯籠の形にしたりしたことだと思います。のこぎりの使い方や、のこぎりがたくさん使えて、楽しかったです。また、祭りの日は、みんなで一生懸命作った竹灯籠がきれいに光っていて、感動しました。

ぼくは、鷺山が大好きなので、来年度は鷺山祭りや地元イベントに参加して鷺山をもっと知って、地元を盛り上げていきたいなと思います。



竹灯籠まつり  
5年2組 伊藤 あい

私は竹灯籠まつりを通して一番心に残ったのは、みんなで鷺山に登って竹を切ったことです。のこぎりで竹を切ってみたら、とても力がいり、あまり上手に切れませんでした。だけど、のこぎりを引くときに力を入れると教えてもらった事を思い出し、そんなに力を入れなくても切れるようになりまし。

実際に、竹灯籠で二頭立波が完成した時は、とてもうれしかったです。完成した二頭立波を屋上から見た時は、とてもきれいで、みんなで力を合わせてがんばってよかったなと思いました。また、地域の方々にもたくさん手伝っていたのだとおかげで完成させることができました。竹灯籠の光は、みんなの明日を照らしているようで、とてもきれいでした。今年も学校の行事も少なく、友達と活動することが少なかつたのですが、今回の竹灯籠まつりのように、自分たちに今できることを考え、地域の人たちと力を合わせ、のりこえていきたいです。



竹灯籠まつりに参加して  
6年2組 小野 若菜

昨年12月12日に鷺山小学校で竹灯籠まつりが行われました。私たちインリーダーは約2カ月前からこの祭りに向け、鷺山自治会連合会の方々などと一緒に、竹の切り出しや看板作成などの準備をしてきました。当日も竹灯籠の飾りつけや写真を撮るなどの活動をしました。そして約1万個の竹灯籠が『二頭立波』の形に並べられ、屋上からの竹灯籠の光に感動しました。

私はこの活動に関わって、今まで地域や自治会の人と協力して活動することはあまりなかったのですが、一緒に楽しくできてとてもよかったです。また、地域の方々にもたくさん手伝っていたのだとおかげで完成させることができました。竹灯籠の光は、みんなの明日を照らしているようで、とてもきれいでした。今年も学校の行事も少なく、友達と活動することが少なかつたのですが、今回の竹灯籠まつりのように、自分たちに今できることを考え、地域の人たちと力を合わせ、のりこえていきたいです。



ボランティアに参加して思ったこと  
1年1組 橋本 亜音

私は、ボランティアとして、鷺山竹灯籠まつりに参加しました。

私は、昨年度鷺山小学校を卒業して、何か、鷺山小で、また活動したいなと思っていました。そんな時に、ボランティアの用紙を見て、友達と行く事になったのがきっかけでした。

私は、今回のようにしっかりとボランティアに参加したのははじめてでした。本番は、ライトアップされたグラウンドを見て感動して、何回も見に行きました。

作業の中に、ドリルで竹に穴をあける作業がありました。私がその作業をしていたら、地域の方が、やりやすいように、竹をおさえてくれたり、竹を持って支えてくださったりしたことがありました。その時に、すごく協力しあっているなと感じました。だから、片付けまで終えたときには、達成感が大きかったです。

このボランティアでの達成感を忘れずに、中学校生活でも役立てていきたいです。